

wadatch

「わだっち」

親子で街デビュープロジェクトの活動ブログはこちらをご覧ください。
<http://blog.goo.ne.jp/machidebut>

発行日 2012年12月15日
 発行元 わだっち編集部
 連絡先 090-3097-8636
 machidebut_info@yahoo.co.jp

「わだっち」復刊です！

ご無沙汰しておりました。徐々に登場の地域新聞「わだっち」西本です。8月を最後にお休みしていた「わだっち」ですが、今月からほぼ毎月発行で来年夏まで定期発行する予定です。

わだっちと和田商店会のコラボ開始！

今年の2月に初めて開催した文章講座をきっかけに、母の視点でみた和田商店街の暮らしを伝える地域新聞「わだっち」を創刊したのが5月。

「わだっちの『お客さんから見た商店街の姿』を盛り込んで、ホームページが作れたらいいね」と和田商店会と連携が始まり、7月から和田商店会×わだっち編集部×デザイナーがコラボして和田商店会ホームページ協創プロジェクトがスタートしました。

暑かった編集部の夏！

7月8日は、ひだまりクリニックの一室をお借りしての編集会議。新聞の編集とホームページコンテンツのアイデアをまとめて、9月からは街デビューワークショップに商店街ツアーを実施しました。ワークショップと商店街ツアーには、スタッフ・参加者あわせてのべ85人が集結。商店街ツアーはカメラクルーが入りNHKのニュース（15時からからの放送でしたね）やNHKオンラインで動画配信がされました。2日間のツアーで和田商店街の魅力写真がたくさんあつまりましたよ。

10月から始まった第二期文章講座で、地域から新しいメンバーの参加が増えたのが何よりうれしいできごと。8月からスタートし、新たなメンバーが加わった「商店街インタビュー」では、すでに14本のレポートが出来上がっています。

11月11日にわだっち編集部×和田商店会のホームページがオープン！！

ところで、わだっち編集部でコンテンツ企画・製作をお手伝いさせていただいたホームページ。みなさんごらんになられましたか？

店主さんだけでなく、たくさんの若い世代が製作にかかわって、和田商店街の魅力をどんどん掘り起こし発信したい。未来に向けて、この街のよさを多くの人に知ってもらいたい。

そんな願いをもとに、和田商店街への熱い想いから出来上がったホームページです。コーナーのアイデアやお店のレポートや掲載したい情報など、商店会の意見と消費者である編集部の声をつないで、ひとつひとつ作りました。（次号へつづく）

親子で街デビュープロジェクト 代表 西本 則子
 消費生活アドバイザー



<http://wadashotenkai.jimdo.com/>

「和田商店街の笑顔」更新予定

わだっち編集部がお届けする和田商店会ホームページのコーナー「和田商店街の笑顔」の更新予定です！
 （期日・内容は予定であり、変更がある可能性があります。ご了承ください）

掲載日	取材先	タイトル（予定）
11月11日	荒川屋米店	米ひと粒ひと粒に思いを込めて
11月25日	あまみや	「あなたのために」選び抜かれた服が並ぶ
12月9日	川上屋	変わらぬ味へのこだわり
12月23日	さくら湯	体を癒し、心を癒す！ 「和田の名湯『さくら湯』のススメ」
12月30日	あしかわ屋酒店	二世代で店を守る
1月6日	花六	徹底サービスにこだわる
1月20日	ローソン	店主は和田商店会新聞・初代編集長
2月3日	濱海苔店	「高く安く」仕入れた原料を自家製造 創業80年の老舗
2月17日	ヨシダ文具	あなたの欲しいもの、きっとあります
3月3日	斉藤米店	“品質吟味・親切・勉強”の斎藤米店
3月17日	和田堀診療所	地域の人が支えてきた和田堀診療所
3月31日	居酒屋五六八	「和田の高倉健」が仕切る
4月7日	ペニーレーン	サービスの源は「心配性」！？
4月21日	和田自治会瀧澤さん	タイトル未定（現在、鋭意執筆中）
5月5日	林楽器商会	問屋はオリジナリティで生き残れ！
5月19日	中華銘菜圳陽（せんよう）	タイトル未定（現在、鋭意執筆中）
6月2日	スーパーつかさ	タイトル未定（現在、鋭意執筆中）

お忙しい中、取材にご協力をいただきありがとうございました。
 ホームページへの掲載をお楽しみに！

わだっち Q & A (よくあるわだっちへの質問です)

Q 無料で配布されている「わだっち」。印刷費用はどうしているの？

A 製作は編集部員のボランティアで行っています。印刷費用は文章講座の参加費を元手に印刷をしています。1枚5円の両面コピーで両面印刷するので一部できるのに10円かかります。たくさんの号数を発行したいので、夏休みまでは毎号200部のみでの限定配布です。インターネットに接続可能な方は、和田商店会ホームページからダウンロードできますよ。

わだっち編集部が行く！ お店訪問レポート5

徹底サービスにこだわる フローリスト・花六

- 住所：和田3-11-3
- 電話番号：03-3383-8711
- 営業時間：9:00-20:00
- 定休日：木曜季節により日曜日
- 取り扱い商品：生花・鉢物・花葬儀



「一度“花六”の敷居をまたいだお客さんは、決して手ぶらでは帰らせない」—和田商店街唯一のお花屋さん、「フローリスト・花六」。三代目店主の来本さんのこだわりはそれだ。

取材で訪問した日、来本さんは店の奥で大きな花束を2つこしらえていた。聞けば、妙法寺にある「無縁さま」のお墓に縁日のたび供える花なのだという。

江戸の昔から妙法寺とともにある町らしい、歴史を感じさせる光景。

—しかしその一方。実は「花六」は、とても「新しい」花屋でもある。

「手ぶらでは帰らせません」

「花六」の新しさ。—その秘密は、手がける仕事の多彩さにある。

「花六」はただ花を売るだけの花屋ではない。結婚式のブーケから葬儀まで、はたまた住宅の庭造りや店舗の装飾など、その仕事は実に幅広いのだ。近隣でフラワーアレンジメント教室を開くこともあれば、造園を請け負った庭の「アフターサービス」として、スズメバチの駆除をしたというエピソードまである。

「花六」がこれほど多彩な顔を持つようになった背景には、「一度花六の敷居をまたいだお客さんは、決して手ぶらでは帰らせない」という来本さんのこだわりがある。

馴染みのお客さんたちが、「花六」に様々な相談をもちかける。来本さんは、自らの技術や人脈を駆使し、全力でそのリクエストに応える。そうして奔走するうちに新しいチャンスや人脈が生まれ、「花六」の可能性はどんどん広がってきた。

お客さんとの二人三脚で変化してきた「花六」は、いまやただの花屋ではない。そこにあるのは、地域に根付いた商店街ならではの、「古くて新しい」花屋のあり方だ。



ご主人の来本さん。眼鏡がチャームポイントだ。

「生きざま」が見える葬儀をもっと身近に

なかでも、来本さんが新しい取り組みとして力を入れているのが、葬儀のアレンジだ。「花六」では、葬儀屋に代わって、葬儀の手配すべてを行うことができる。

そこには、顔なじみの花屋が窓口になることで、いままで遠い・難しいイメージだった葬儀を身近に感じてほしい、という来本さんの思いがこめられている。普通、日常的に葬儀について考えたり、話したりする人は少ない。しかしそうして遠ざけていると、いざというときに画一的な葬儀しかできなくなってしまうのだ。

しかし来本さんの手がける葬儀は違う。「その人の生きざまを少しでも感じてもらえるような葬儀をしたい」—それが、来本さんのこだわりだ。

故人や遺族と事前に話し合い、故人の好みやその人らしさを反映させた花を用意する。花だけにとどまらず、お土産を地元の煎餅にしたり、食事に故人の好きだったコロッケを追加したりしたこともあるという。

いずれも、地域の花屋という身近な存在として故人や遺族を良く知り、寄り添ってきたからこそ実現できたことだ。

「粋な買い方、してほしいね」

来本さんのこだわりはもちろん、お店で花を買うときにも発揮される。

—いわく、「粋な買い方、してほしいんだよね」。

「粋」とは、その花が「何のための花か」を大切にすることということ。花を買うときには目的と予算を言って、あとは店主にお任せする。もちろん希望の色や花を言ってもいいが、最終的には任せてほしい、という。

「花屋は職人気質なところがあるからね、任せられると嬉しいんだよ」。

嬉しいから、ちょっとカスミソウを足そうとかサービス精神もムクムクと湧き上がる。

エキナカ花屋なら「コレとコレを〇〇本ください」で終わりかもしれない。でも商店街の花屋では、それではいかにも味気ない。

想像してみしてほしい。閉店間際に駆け込んできた男性が「妻へ贈る結婚記念日の花束をお願いします」なんて言ったら—。

こんな「粋」な注文をされたら、来本さんの職人魂がうずかかないはずがない—。

「ゆりかごから墓場まで」

来本さんは、花屋の仕事を「ゆりかごから墓場まで」と表現する。

確かに、生まれたときには出産祝いのお花を贈られ、産立つときには花に囲まれ送られるのが人の常。「花六」は、「商店街のお花屋さん」として、地域の人々の人生にそっと寄り添っている。

孫の入学、娘の結婚式、友人の出産・・・。あなたの人生に何かイベントが起こったら、ぜひ「花六」に足を運んでほしい。

—帝釈天のほど近く、緑の鉢植えに埋もれた店の奥。

「手ぶらでは帰らせませんよ」と、来本さんが腕まくりをしてあなたを待っているから。



予算わずか1000円、「3歳の息子と会話が弾むような花」という無理難題を言って作っていただいた花束。子供のハート鷲掴みのスパイラルパンプーと季節を代表するトルコキキョウ。お見事。

取材を終えて わだっち編集部のだっちより（取材日：9月25日）

お花屋さんの店先に並んでいるのは、花だけではなくた—。聞けば出るわ出るわ、多彩なエピソードの数々。お花屋さんのイメージが変わりました。駅ナカとは違う「商店街の花屋」としてのあり方を考え、常に新しいことに挑戦する姿。カッコいいです。

